

Access Acceleratedサイドイベントを開催(第7回 アフリカ開発会議)

非感染性疾患対策(予防、治療、ケア)における日本のリーダーシップを発信

2019年8月28日、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)にて、Access Acceleratedは製薬協と共同で「Accelerating Sustainable UHC by Improving Access to NCD Care」と題した「第7回 アフリカ開発会議(TICAD7)」公式サイドイベントを開催しました。同パートナーシップが推進する低・中所得国における非感染性疾患(NCD)対策の活動を共有するとともに、今後の展望を議論しました。

政策立案者、実施パートナー、およびバイオ医薬品業界のリーダーの多様な視座を反映して開催された本イベントでは、以下の点が活発に議論されました。

- ・特にNCD対策において、革新的な官民パートナーシップモデルにより、サイロ^[1]を壊してアクセスを改善することの重要性
- ・今後のプログラムの拡大に向けて、ケニアとガーナでの事例から得られた経験と教訓の共有
- ・マルチセクター間の連携促進と、持続可能なNCD対策への追加投資を喚起する触媒としての機能を中心とした、Access Acceleratedの今後の展望

製薬協国際委員会の赤名正臣委員長と知原修副委員長は、100人超の来場者を歓迎し、イベントプログラムは製薬協の中山譲治会長の開会の挨拶により始まりました。その後、参議院議員で世界保健機関(WHO)のUniversal Health Coverage(UHC)親善大使を務める武見敬三氏と、ケニア保健省のHead of Public Health Strategic Programsを務めるJoseph Kibachio氏による基調講演が行われました。

開会挨拶、基調講演

はじめに中山会長は、1つの医薬品が多くのアフリカの人々の命を救った事例として、2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞された北里大学特別荣誉教授の大村智氏により開発が進められたイベルメクチンに触れました。この偉業は製薬企業をはじめ、多くの関係者による利害を超えた支援や協力もあって成し遂げられたことを紹介するとともに、国際的な製薬企業の有志によって立ち上げたAccess Acceleratedの活動も、少しでも低・中所得国(LMICs)の医療サービスを改善できないかとの思いで取り組んでいると述べました。また、これまでステークホルダー間の連携があまり取られずに進められていたNCD対策もAccess Acceleratedを通じて革新的な官民パートナーシップモデルが着実に醸成されており、従来のサイロを壊し、医薬品アクセスの改善につなげたいとの期待を述べました。

立ち足る多くのNCD課題に対し、地域ごとでもグローバルでも努力を結集させて取り組むことが必要で、「国連のSDGs目標を達成するには製薬企業が重要な役割を担っていることは間違いないが、われわれだけでは達成できない」点を訴求しました。

武見氏は、UHCへのファイナンスの日本独自の取り組みについて所見を述べました。日本政府は、低・中所得国でのUHCの推進に積極的に取り組んできており、UHC実現に向けたさまざまな取り組みやプログラムを支援してきていることを強調しました。



製薬協 中山 譲治 会長

[1] 医薬品アクセスの障壁となっている各国の制度や規制の枠組みを「サイロ」と表現する。

Kibachio氏は、治療や医療へのアクセスを増加させるためには資源の動員がとても重要だと強調しました。Access Acceleratedは、グローバルヘルスのほかの取り組みに対しても良いモデルになり、ヘルスケアの課題は公的機関と民間機関を統合した多重構造的で協動的な取り組みによって解決されるべきと述べました。

私達の保健システムはサイロ化する資金に苦悩している。ただ、サイロであっても窓があると私は固く信じている。

——ケニア保健省 Joseph Kibachio 氏

パネルディスカッション

これらの講演に続いて、パネルディスカッションが開催され、Access AcceleratedのディレクターであるJames Pfitzer氏とNCD Alliance of Kenyaの会長であるEva Njenga氏が司会を務めました。パネリストは、ケニアやガーナ等でNCDケアのアクセス改善プログラムを実施する際に得た経験と教訓を共有しました。パネリストは下記のみなさんです。

- Ghana Health Service Dennis Laryea 氏
- PATH Helen McGuire 氏
- 慶應義塾大学 中谷 比呂樹 氏
- ケニア保健省 Joseph Kibachio 氏
- 世界銀行 Magnus Lindelow 氏
- 国際製薬団体連合会 (IFPMA) Thomas Cueni 氏
- City Cancer Challenge Susan Henshall 氏



左からJames Pfitzer氏 (Access Accelerated)、Eva Njenga氏 (NCD Alliance of Kenya)、Magnus Lindelow氏 (世界銀行)、Dennis Laryea氏 (Ghana Health Service)、Susan Henshall氏 (City Cancer Challenge)、中谷比呂樹氏 (慶應義塾大学)、Joseph Kibachio氏 (ケニア保健省)、Helen McGuire氏 (PATH)、Thomas Cueni氏 (IFPMA)

Key Takeaways

両基調講演とパネルディスカッションを通じて、UHCを推進し、NCDの予防、治療およびケアへのアクセスを向上するための検討事項とアクションについて、いくつかの重要なポイントが明らかになりました。

統合的な対応の必要性

強力なパートナーシップの醸成を奨励する持続可能な開発目標17 (SDGs) の精神において、効果的な公衆衛生プログラムの創出と財源の捻出の両面から、サイロを破壊することの重要性がサイドイベントを通して強調しました。スピーカーの何人かは、すべての人々の健康を実現し、NCDの予防、治療、ケアへのアクセスの障壁に取り組むために、パートナーシップとコラボレーションがいかに重要であることを強調しました。Cueni氏は「個々のサイロに集中することはできない。パートナーシップに重点的に取り組むべきである。私たちは、ボトルネックとなる問題点、すなわち、調達、腐敗、偽造医薬品、あら

ゆる課題に目を向けなければならない。それが、Access Acceleratedとそれを取り囲むパートナーシップにつながる精神である」と述べました。

健康は発展と経済の問題

Lindelow氏はコメントの中でヘルスケアと経済発展の関連性を強調し、世界銀行のHuman Capital Projectが、不十分なヘルスケアが経済成長と生産性に与える影響について、どのように注目してきたかについて考察しました。「(ヘルスケアへのアクセスが制限されている)特定の地域で生まれた子供は、ヘルスケアサービスへのアクセスがあった場合に対し、生産性はたった40%となる」と述べました。

持続可能な解決策に投資する必要性

UHCとNCDアクセスの取り組みにおける共通課題として、投資の難しさが強調されました。Kibachio氏は、自らの経験を踏まえ「ケニアのヘルスケアシステムは、限定的な投資から抜け出せずにいる。開発途上国は往々にして、限定的な投資でやり繰りするためにヘルスケアシステムの変革を求められる」と説明しました。また、中谷氏は「日本がUHCを達成した際は、財務省が重要な役割を果たした。持続可能なシステム構築には非常に重要な役割である」と、ヘルスケア領域にとどまらない連携の重要性を強調しました。

データ活用による効率化

McGuire氏は、「われわれ全員にデータを活用する責任がある。どう活用するか? 各データを便利に簡単に結び付けるにはどうすれば良いか?」と呼びかけ、PATHとAccess Acceleratedによる「NCD Navigator」と名づけたプラットフォームを構築した取り組みを紹介しました。このプラットフォームにより、重点国で実施されたNCDアクセスプログラムのデータが集約および可視化され、利用する現地政府の高官は、連携候補となるパートナーを見つけやすく、政府が取り組むべき現地の課題の特定を支援します。

パイロットのみならず活動の拡大を

パイロットプロジェクトからの学習とベストプラクティスは、活動を拡大するために重要です。Cueni氏の言葉を借りれば、「活動を拡大できなければ、それは失敗である」といえるでしょう。City Cancer ChallengeのCEOであるHenshall氏は、都市レベルの活動で得られた知見が国家レベルの活動の拡大にいかにも有用かについて明言し、都市内でがんに取り組むすべての人を集約した組織の取り組みが直接的に公共政策に影響を与えた事例を紹介しました。Pfizer氏は、Access AcceleratedがCity Cancer Challenge等のパイロットで得られた知見をどのように活用しているかを強調し、「都市レベルの活動で得られる知見はユニークであり、Access Acceleratedのさらなる拡大をもたらしている」と述べました。

私たち一人ひとりは、忘れ去られたNCD患者に治療が届けられるようサポートします。

——NCD Alliance of Kenya Eva Njenga 氏

このイベントは、中谷氏による「理論を実践に結び付けましょう」との呼びかけで、言葉を行動へと移していくことを強くアピールし、各自が責任をもって非感染疾患の課題解決とNCD患者の支援を推進していくことを確認しました。

おわりに

当日は立ち見客が出るほど会場は埋め尽くされ、パネルディスカッションもフロアから貴重なコメントが出る等、盛況のうちに幕を閉じました。登壇者や参加者からはたくさんのポジティブなフィードバックがあり、日本の製薬企業が医薬品アクセス改善に尽力していることをより多くの人に理解いただく良い機会になったと考えます。日本政府がUHCを世界中に推進する中で、日本企業のAccess Acceleratedを通じてのNCD治療へのアクセス改善の努力が世界のさまざまな国々でのUHC達成の一助になればと期待をしております。

(TICAD7公式サイドイベント JPMA / Access Accelerated タスクフォース)